

第8回「沼津駅付近鉄道高架事業に関するP I委員会」議事録

平成25年3月16日（日）13:00～15:00

静岡県東部総合庁舎 別棟2F 会議室

【司会】

第8回沼津駅付近鉄道高架事業に関するP I委員会を開会いたします。私は、本日司会を務めます静岡県交通基盤部管理局政策監の井ノ口でございます。どうぞよろしくお願い致します。まず、議事に入ります前にお手元の資料の確認をお願い致します。

まず本日の資料と致しまして、次第、委員名簿、座席表がございます。それから、資料1と致しまして「沼津高架P Iプロジェクトのながれ」、資料2と致しまして「P I活動状況報告」、資料3と致しまして「地域づくりの目標について」、資料4と致しまして「Step 2（目標の設定）地域づくりの目標（案）」とございます。資料5と致しまして「ステップ3の進め方について」、資料6と致しまして「今後の進め方」、それから次に参考資料がございます。参考資料1と致しまして「第7回沼津駅付近鉄道高架事業に関するP I委員会議事録」がございます。参考資料2と致しまして「第7回P I委員会傍聴者アンケート及びインターネット中継結果」でございます。参考資料3と致しまして「沼津高架P Iプロジェクト・P I実施計画」でございます。参考資料4と致しまして「勉強会（沼津駅周辺地区）でのステップ2に関するとりまとめ」。それから、参考資料5と致しまして「勉強会（原地区）でのステップ2に関するとりまとめ」。それから、参考資料6と致しまして「意見まとめ冊子（最終報告）」でございます。それから、参考資料7と致しまして「地域づくりの目標に関する整理」でございます。また、参考資料8と致しまして「沼津高架P Iプロジェクトニュース第5号」がございます。以上でございますが、不足している物ございましたら、事務局までお知らせください。

なお、本日、松浦議員におかれましては、電話でのご参加となっております。

城山委員、目加田委員におかれましては、私用の為ご欠席となっております。

本日の傍聴でございますが、希望された方全員の傍聴となっております。なお、本日の委員会の様子につきましては、これまでと同様、インターネットにて中継しておりますので、ご承知おきください。

それでは、開会に当たりまして、静岡県交通基盤部理事の増井よりご挨拶申し上げます。

【交通基盤部理事】

交通基盤部理事の増井でございます。

本日は、委員の皆様方におかれましては、大変ご多忙にもかかわらず、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

また傍聴の皆様方、年度末の大変お忙しい中にも関わらず、ご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

さて、本日のP I 委員会は8回目の開催ということになります。

前回のP I 委員会では、沼津駅周辺地区の勉強会が立ち上がったということをご報告いたしました。これまでに沼津駅周辺地区で3回、それから原地区でも2回の勉強会を開催することができました。

勉強会では、石田委員長をはじめP I 委員の皆様方にもご視察いただき誠にありがとうございました。

私も勉強会を拝見させて頂きましたが、参加者の皆様方のまちづくりに対する強い熱意を感じたところでございます。今後も引き続き全力をあげて本プロジェクトに取り組んでまいります。

本日は、昨年4月から取り組んでまいりました「P I 活動状況報告」とそれからステップ2の「地域づくりの目標」につきましてご報告をさせていただきます。「地域づくりの目標」におきましては、多くの市民の方々からの意見を取り入れ、本日、県の成果（案）という形で提示をさせていただいております。

委員の皆様におかれましては、これまで同様、忌憚のないご意見をいただきますようお願いを致します。

本日は、どうぞよろしく願いいたします。

【司会】

それでは、続きまして委員長より一言ご挨拶をいただきますと共に、引き続き議事進行をお願い致します。

【委員長】

今日もご苦勞様でございます。今日もよろしく願いを致します。前回の委員会は、1月27日でございます。その時には勉強会がようやくスタートということでもございました。勉強会だけではなく、有識者とかオープンハウスとか車座談議とかあるいは地域のアンケート調査等で、かなり幅広く市民の皆様のご意見、課題認識とか将来像について伺ってきたところでございますし、それを一つの材料にして、相当深い議論が勉強会等でも進展しているということで、先ほど増井理事の話にもございましたけれども、私も2回傍聴させていただいて、そのことは実感させていただきました。それを基に、地域の目標像についての取りまとめを今日ご審議いただいて、且つ長らくかかっておりましたステップ2の評価をどうするかということが今日の重要議題でございます。

どうぞよろしく願いを申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。

今日は3人だけでございますけれども、松浦委員は電話回線を使った参加ということでございます。松浦委員聞こえますか？

【松浦委員（電話）】

聞こえます。

【委員長】

はい、よろしくお願い致します。

【松浦委員（電話）】

はい、よろしくお願い致します。

【委員長】

それでは、早速でございますけれども、議事次第に従って進めてまいりたいと思います。まず本日の委員会の目的と流れについて、事務局からご説明をお願いします。

1) 第8回委員会の目的と流れ

【事務局】

街路整備課長の増田でございます。本日もどうぞよろしくお願い致します。それでは、座って説明をさせていただきます。

それでは、本日の委員会の目的と流れについてご説明申し上げます。

「資料1」の「沼津高架P Iプロジェクトのながれ」をご覧ください。

こちらは、第1回P I委員会からのながれを載せてございますが、本日は、第8回目の委員会ということでございます。

本日の委員会開催にあたりましては、これまで同様3月5日（火）に記者提供しまして、傍聴者の募集を3月12日（火）の10時まで行いました。本日は希望者全員13名の方に傍聴していただいております。

さて、前回委員会でも報告しましたが、懸案であった勉強会を1月に立ち上げることができ、この勉強会を中心にステップ2目標設定に向けた議論を進めてまいりました。

後ほど報告いたしますが、勉強会では、様々な考えの者同士が議論を交わすことで、これまでのオープンハウスや車座談議と比べてより深い議論を行うことができました。これまでのP I活動で、目標の設定に関する意見はほぼ出尽くしたという風に感じておりまして、ステップ2もいよいよ収束に向かっていているものと考えております。

本日は、この勉強会の実施状況も含めまして私共が実施してまいりました取組みを報告致しますとともに、ステップ2の成果案をお示ししますので、委員の皆様には、次のステップ3へ進むことにつきまして、ご審議をいただきたいと考えています。

また、今後実施してまいりますステップ3の進め方につきましても、ご助言をいただきたいということで、本日の委員会を進めてまいりたいと思っております。

説明は以上でございます。

【委員長】

はい。ありがとうございます。今のご説明よろしいですか。

はい、ありがとうございます。それでは、P I 活動状況報告でございます。よろしくお願いを致します。

2) P I 活動状況報告

【事務局】

沼津土木事務所都市計画課専門監の勝又です。今日は、土曜日のところ、ありがとうございます。傍聴の皆様もありがとうございます。

それでは、座って説明させていただきます。

手元には「資料2」として、資料を配布してございます。

1月27日の第7回P I 委員会以降の取組みについてでございます。ごらんのように、車座談議、オープンハウス、事業者ヒアリングを実施してまいりました。勉強会につきましては、沼津駅周辺地区で2月2日に第2回を、3月2日に第3回を、また、原地区においても、2月9日に第1回を開催することができまして、3月9日には第2回を開催しております。

それでは、個別に報告いたします。まずは、勉強会の状況でございます。

こちらは沼津駅周辺地区の状況でございます。画面がわかりづらくて申し訳ないのですが、第2回勉強会では、第1回に引き続き地域づくりの目標について議論いただきました。寺部委員、目加田委員にもご視察いただき、参加者の熱心な議論の状況やファシリテーターの進行についてお褒めの感想をいただきました。

第3回勉強会では、地域づくりの目標についての勉強会意見の取りまとめを行いまして、ステップ3代替案の設定の議論を開始しております。石田委員長にご視察いただき、良い雰囲気での議論が進められていることに対するお褒めの言葉と、参加者からは幅広く深い意見がでており、積み重ねていけば良いものができあがるといった感想をいただいております。

第1回の勉強会の時に、傍聴の方から「声が聞こえづらい」というご意見が出されましたので、会場のレイアウト、ここの会場なのですが、変更してございます。左側が第1回目、右側が第2回、3回のレイアウト表示でございます。傍聴席と、グループ検討の席が少し近づいたことで、第1回と比べますと傍聴しやすくなったとご意見をいただいて、ご理解をいただいた次第でございます。

これは現状の写真なのですが、ちょっとわかりづらくて申し訳ないのですが、ABCを斜めに配置してあったのを直線に並べまして、その分傍聴席、代理人の方の距離を縮めたというものでございます。

こちらは、原地区の勉強会の状況でございます。

沼津駅周辺地区の勉強会に遅れてはしまいましたが、2月9日に原地区の勉強会をようや

く立ち上げることができました。

検討の内容としては、第1回、第2回とも、地域づくりの目標について議論を進めました。第1回勉強会には、石田委員長、目加田委員にご視察いただき、熱心な議論に対してご評価いただきました。ただ、会場の傍聴のしにくさ、参加者や傍聴者の年齢層が高いことについてご意見をいただいております。

傍聴につきましても、第2回勉強会では会場のレイアウトを沼津の方と同じような形で少しレイアウトを変更致しまして、なるべく聞きやすいようにしております。また、年齢層につきましても、今後も引き続き若い世代の意見聴取に努めてまいります。

こちらは、原地区における勉強会の参加者構成になります。

原地区も沼津駅周辺地区と同様、鉄道高架及び貨物駅の移転に関心のある団体様から参加いただいております。簡単にご説明致しますと、上から、郷土を愛する会様は、原地区の新貨物駅用地の地権者の方をはじめとする、原の郷土を愛する方々でございます。

三区JR貨物駅対策協議会様は、原地区の新貨物駅用地に位置する原新田区・一本松区・桃里区の住民の方々に組織されている会でございます。

沼津商工会(推薦)につきましては、沼津市商工会の会員様から推薦された方々です。

原地区コミュニティ推進委員会様につきましては、原地区に居住する住民を会員とする、いわゆる、コミュニティ都市行政です。

ふれっしゅ沼津様は、高架事業にご懸念を感じている団体様でございます。

以上、合計16人の方に参加いただき、2グループに分かれ、勉強会を実施しております。

次に、車座談議でございます。

車座談議は、勉強会にも参加いただいている富士見町自治会 沼津駅周辺総合整備事業対策委員会様において2回目を、沼津駅の鉄道高架化を推進する有志の会様においては通算3回目を、また、今回初めて、静岡県立沼津視覚支援特別学校の先生方を対象に実施しております。

富士見町自治会 対策委員会様、有志の会の皆様には、主にこれまで私どもが実施してまいりましたPI活動状況の報告、勉強会の様子など、現在進めている地域づくりの目標につきましても意見をいただきました。

沼津視覚支援特別学校の先生には、私どもの活動の報告と、バリアフリーなまちづくりについてご意見をいただきました。

それでは、車座談議について、紹介させていただきます。

これは2月18日に実施した「富士見町自治会 沼津駅周辺総合整備事業対策委員会」様との車座談議です。ご意見としまして、

- ・鉄道高架が完成するまで20年も待ってられない。まず、区画整理の網を外し、高田踏切から日吉踏切までの道路を2車線にし、歩道を整備してもらえばよい。27mもある広い道路はいらない。
- ・高架化では時間が掛かりすぎる。財政が厳しく、人口も減少していく中で、時代に合

った形で見直していくことが必要。

- ・町内の世帯数や小・中学校に通う子供の数が、年々減ってきている。
- ・勉強会参加者に、南北自由通路のある駅や車両基地、富士見町の実態を見てもらいたい。

といった意見を伺いました。また、初めて参加された方からは、

- ・高架ありきだと思っていたが、P Iで公正に意見を聞いてくれているという印象を持った。

という、意見も伺うことができました。

これは2月20日に実施した「沼津駅の高架化を推進する有志の会」様との車座談議です。

- ・沼津貨物駅は、これまで県東部や沼津市の発展を支えてきた要因の一つでもあり、沼津に必要な施設である。
- ・物流の拠点である貨物駅を他地区へ移転させてはならない。
- ・原地区は、既に国道1号や東海道本線が通過しているし、港湾も近い。また、今後スマートインターや東駿河湾環状線の西区間の整備がされれば、物流の連結点機能が更に増してくる。加えて放水路等が整備されれば、原地区は沼津の副都心となり得るし、県東部にとっても有益な地区となる。

等のご意見もいただきました。

これは2月28日に車座談議を実施した「県立沼津視覚特別支援学校」の建物の様子です。

視覚特別支援学校は、目に障害のある幼児から高校生までが通う学校で、県内には、静岡、浜松、沼津の3校があります。学校の生徒は、沼津市内だけではなく、富士宮市、御殿場市及び伊豆の国市等から通学しているとのことでした。

今回、目に障害をもたれる方々の意見を聴取するため、視覚特別支援学校を伺い、学校の先生方と車座談議を実施しました。

沼津駅周辺で心配な事につきましては、

- ・沼津駅構内の階段や跨線橋の幅が狭く、朝の通勤ラッシュ時には危険を感じる。
- ・弱視は暗い所では見えなくなるので、ガードでは不安である。また、歩道の幅が狭いので、盲導犬を連れて歩く際にも危険を感じる。

また、

- ・歩道の色と点字ブロックの色は同系色となると見えづらいのでコントラストをつけてほしい
- ・点字ブロックは歩道の右側ではなく、なるべく中央にしてほしい

など、我々、土木技術者として考慮しなければならない意見も伺うことができました。

こちらはその他の活動としまして、今後、子育て世代の女性の方々のご意見も拾っていきこうという考えで、その機会をつくるため、沼津市を中心に活動している子育て応援サークルの団体様の活動の様子を見させてもらうため、お邪魔させていただきました。

会の代表の方からは、「ケーキ等の特典があると、みなさんアンケートにはどんどん答え

てくれますよ」と「なるほど」と思う意見も頂きましたが、今後、皆様からの意見を頂けるよう、我々も努力してまいりたいと考えております。

次に、オープンハウスでございます。

オープンハウスは、県立沼津技術専門校で開催されましたテクノフェアというイベントにお邪魔しました。イベント開催情報を我々が聞きつけまして、若い世代の意見聴取を目的とするため、沼津駅周辺地区第3回勉強会の翌日の日曜日でしたが、急遽、開催いたしました。

今回オープンハウスを実施した会場の位置図でございます。右上のほうでございます。県立沼津技術専門校は沼津市の北東部に位置します。

こちらは、テクノフェアの様子です。テクノフェアは、ものづくりの楽しさや技能の素晴らしさをもっと身近に知っていただこうと、毎年、沼津技術専門校が開催している、いわゆる学園祭のようなイベントです。

当日は、先端技術の紹介やペン立てや半田付け等の工作体験だけでなく、バルーンパフォーマンスなども実施され、高校生や子育て世代の来場者が多くありました。沼津技術専門校からの報告では、約1,000人の来場があったとのことでした。

こちらがオープンハウスの実施状況でございます。

聴き取り調査人数は94人、内訳は、男性が50人、女性が44人でございます。実施時間がテクノフェアの開催時間に合わせて4時間という短い時間ではありましたが、多くの方からのご意見を伺うことができました。

年代別構成としては、一部職員の主観によるものもありますが、これまで不足していた10歳代以下の方及びイベントに訪れた子育て世代の方からの意見を多く聴くことができました。

10歳代以下からは、開催場所が沼津駅から離れていたこともあり、沼津駅付近にはあまり行かないという声もありましたが、自転車で駅の南側へ行く際に、あまねガードで自転車を降りて通行したり、あまねガードを迂回したりしなければならないので不便だ、という意見や、若者向けのショップが沼津駅の周辺に欲しいという意見がありました。

次に事業者ヒアリングでございます。

今回実施した事業者ヒアリングは、原地区に立地し事業展開されている企業2社に、「原地区の課題や期待について」、主に物流や社会資本整備、雇用関係について意見聴取することを目的に実施しております。

2社は、原駅を挟み、北と南、東と西に立地する化学加工メーカーと建設材料関係の企業でございます。

主な意見としては、「原地区の課題や期待について」は、

- ・東駿河湾環状道路の西区間の延伸や東名・新東名のスマートインターチェンジ開設などにより、今後、物流的には一等地になるだけのポテンシャルはある。
- ・大雨による冠水で従業員の通勤に支障がでている。海岸に近いことにより津波が心配。

などがございます。

また、「原地区における自然環境について」は、

- ・地下水が豊富である。
- ・自然が豊かで、都会と違った静かな環境である。

といった意見を伺いました。

以上が、前回P I 委員会以降実施してまいりましたP I 活動の報告でございます。続きまして、ステップ2における、これまでの取組みの総括を報告致します。

こちらが、これまでに実施した車座談議34回の実績でございます。車座談議は、開催団体延べ37団体、参加人数286名に参加いただきました。全ての参加者から年齢を聴き取ることができませんでしたが、グラフは、車座談議への参加者の年代別構成比率及び男女構成比を示しております。先方からの開催要望に応じて開催した車座談議が多かったために、年代や男女構成比に偏りが出てしまいましたが、今後は、先ほどの報告でも述べましたが、子育て世代の女性の方、また可能であれば高校生などにも、車座談議が実施できるよう取り組んでいきたいと考えております。

続きまして、ステップ2におけるオープンハウスの活動実績でございます。

オープンハウスは、これまでに開催日数20日間、11箇所、1,055人の方から聴き取りを行いました。

年代については、車座談議同様、職員の主観も含まれていますが、こちらのグラフも、年代別構成比率及び男女構成比を示しております。年代別及び男女構成ともに、比較的まんべんなく意見を聴き取ることができたと思います。

こちらが、ステップ2としてこれまで実施してまいりましたP I 活動状況の総括でございます。この1年間多くのP I 活動を実施しまして、延べ、約1,500人の方々と意見交換を実施してまいりました。各P I 活動でお聴きしたご意見は、皆さまのお手元にある参考資料として取りまとめました。

最初は手探りでございましたが、この1年間、委員の皆様のご助言を受けながら、我々なりに工夫を重ねて、多くのP I 活動を進めてまいりました。

その積み重ねの結果として、市民や関係者の皆様との信頼関係も築けてきているのではないかと感じているところであり、次の議事にてご報告し、ご議論いただきますが、ステップ2の目標設定もまとめ、1年間の活動の成果を形として示すことができるところでございます。

私からの説明は以上でございます。

【委員長】

はい。ありがとうございました。只今のご説明に対して、ご質問等ございましたらお願いしたいと思います。松浦さんどうぞ、お願いします。

【松浦委員（電話）】

今ご報告していただいたものでよろしいかと思えます。

【委員長】

いかがでしょうか？どうぞ。

【寺部委員】

まず若者と子育て世代を取り込む努力を随分されたというのはよかったと思えます。ただステップ2というのは、目標の設定ですので、議論が抽象的になりがちだからなかなか他の人の興味を引きにくいものであるにしろ、その努力をされたことはすごく良かったなと思えます。ステップ3に進みますと話がだんだん具体的になると思えますので、若者とか子育て世代とかそういった方々の意見もより取り込みやすくなって、その辺は引き続きやっていただきたいと思えます。

それから、質問ですけれども、例えば沼津駅周辺地区の勉強会の第3回で、ステップ2に関する取りまとめ案についてという議題の中に入っているところで、その時の資料がこの参考資料4ということです。質問は、グループごとにいろいろな意見を出しているところをどうやってこの一つの冊子にまとめたのかということと、一つの冊子にまとめたことについて、またグループでそれぞれディスカッションをしたのか、あるいは全体でディスカッションしたのかどうか、参考資料4とか5が出来てくる過程を教えてください。

【委員長】

はい。お願いします。

【事務局】

沼津土木事務所の都市計画課の田邊と申します。

沼津駅周辺地区の勉強会におきましては、今、寺部委員がおっしゃったように参考資料4でまとめたもので、これを基に議論をさせていただいたのですけれども、これは、議論いただいた意見をファシリテーターがまとめ、その次の会にこれを提示いただきまして、グループ毎にそれぞれまたご意見とか、付けたしを議論していただきました。それをまたまとめたものが今回の参考資料4という形になってございます。

【寺部委員】

そうすると、沼津駅周辺地区の方は、3回目で一通りこれをご覧いただいたということですが、原地区の方は回数が1回少ないのですが、その辺の進捗のずれみたいなものはどうなのでしょうか。

【事務局】

原地区の方につきましては、議論していただいた過程につきましては同じでございますけれども、それぞれ議論はかなり熱心にされたということで1回少ないのですけれども、前回議論していただいたものを1回まとめまして、それをまた提示するという手順でこの参考資料5をまとめています。

【寺部委員】

はい、わかりました。

【委員長】

他にございますか？どうぞ。

【高井委員】

私も今の点が気になったので、グループが原地区は二つ、沼津は三つありますよね。参加しないで申し訳ないのですが、当日、三つはばらばらに議論しますよね。時間の最後までに、その三つを総合するような形の全体の議論はやるのでしょうか？

【事務局】

勉強会の各会の最後にグループ発表という時間を設けまして、それぞれの三つのグループ、原地区なら二つのグループが各グループの検討内容を発表致しまして、それぞれのグループの発表に対しての意見を全体の方に対して伺っております。

【委員長】

私も原地区と沼津駅周辺地区、両方共1回ずつですが、参加させていただきまして、最後に発表という結構スキルがいるようなことはファシリテーターの方が進行されてきました。

それに対して各グループの方が追加することがありませんかということに関しても、結構グループの方から積極的な発言がございました。それに対して他のグループの方から質問なり、コメントを出すということがございました。

ただ、時間全体が定まっておりますので、結構熱心に議論していただくものですから、グループ討論の時間が若干、押せ押せになってですね、最後のまとめのところと総合的討論の時間が若干短いなという印象がありましたので、その辺は今後の課題かなという気がしました。

ついでで恐縮なのですが、子育て応援サークルとかテクノフェアとか、急遽やるということは非常に柔軟で機動性があっていいと思うのですが、これから先、例えば、子育て応援サークルはケーキがあればということでしたが、そのようなことも含めまして柔

軟に対応するということはお考えでしょうか？

【事務局】

今、寺部委員もおっしゃっていましたが、ステップ2は抽象的なことになるものですから、例えば何かお困りですか？という問いかけに対して、デパートが…というような議論になってしまいます。子育て応援サークルの場合、子どもと一緒にいるのか別なのかによって話し方とか違ってくるとは思いますが、今回の写真のように子供が傍にいて折り紙を折ったりしますとなかなか話もできないだろうと。やはりアンケートみたいな形でさせていただく方が一番やりやすいのかなと。ただ、アンケートの内容も場合によっては上手く作っていかないと誘導してしまうような形になりますものですから、今後アンケートということも課題になっていくと思っております。

テクノフェアの方は、工業技術の発表なものですから、生徒さんの声が聴ければいいですけれども、当日は、学園祭ですからそちらの方に行ってしまうので、また何かの機会にそういうところに行くなり、沼津市の中には、県立の沼津工業とか、そういう学校もごございますので、いわゆるサークルとか郷土研究会とかあると思っておりますので、新年度はそういう所にも行って話をするとか対応したいと思っております。

【委員長】

いかがでしょうか？もし無いようでしたら、P I活動の報告についてはこのくらいにしまして、3番目の地域づくりの目標につきまして、事務局から取りまとめの案についてのご説明をお願いしたいと思います。

3) 地域づくりの目標について

【事務局】

それでは、「3) 地域づくりの目標について」ご説明申し上げます。前のスクリーンまたはお手元の資料③をご覧くださいと思います。

こちらは、本日私どもが皆様にお示ししますステップ2目標の設定の成果（案）の作成にいたるまでの経緯でございます。これまでのおさらいになりますが、ステップ2におきまして、地域づくりの目標の設定を行うために、車座談議やオープンハウス、事業者ヒアリングなどのP I活動を実施し、広く市民や関係者の皆さんの意見を伺ってまいったところでございます。

寄せられた意見につきましては、意見取りまとめ冊子にとりまとめ、それをもとに、「地域づくりの目標に関する整理」というものを作成しまして、さらにニューズレター5号として広く市民に問いかけるとともに、勉強会の資料として活用してまいったところでございます。ここまでは、前回第7回のP I委員会までに報告しているとおりでございます。

その後、前回P I委員会以降、先ほど勝又から説明がありましたとおりで、ステップ2の

成果の取りまとめに向けまして、委員の皆様のご助言を踏まえた車座談議及びオープンハウスを開催し、勉強会につきましても、沼津駅周辺地区で3回、原地区で2回開催してまいりました。

本日、お示ししますステップ2の成果案は、これまでのP I活動で伺った意見を踏まえ、取りまとめたものでございます。

お手元の、資料4「Step2（目標の設定）地域づくりの目標（案）」をごらんください。まず表紙がございまして、冒頭に「はじめに」と題しまして、県からの挨拶文を載せてございます。その下に、目次がございまして、ローマ数字のIで、ステップ2におけるP Iプロジェクトの取組み、IIでは「地域づくりの目標」の位置づけ、IIIに地域づくりの目標の構成、IVでは、本題であります地域づくりの目標について、広域的な目標、沼津駅周辺地区の目標、原地区の目標をまとめてございます。また、本プロジェクトの進め方につきましても県の取組み姿勢を改めて整理致しました。

1ページをごらんください。ステップ2におけるこれまでの取組みをまとめてございます。

次の2ページ、地域づくりの目標の位置付けにつきまして、地域づくりの目標は、「今後、代替案などを議論するための基点であること」、「県が事業について判断するために作成したものであること」を記載してございます。

3ページから6ページには、地域づくりの目標の構成について、インデックス的に載せたものでございます。

7ページからは、本冊子のメインであります地域づくりの目標です。

まず、「広域的な地域づくりの目標」は、前回P I委員会でお示しました「地域づくりの目標に関する整理」をたたき台として実施しました勉強会での議論や、オープンハウス、車座談議等の意見を踏まえ、県がまとめてございます。

お手元の参考資料7の「地域づくりの目標に関する整理」と照らし合わせていただくとわかりやすいかと思いますが、これをもとに議論を重ねて、たたき上げて整理したものでございます。

10ページからは「沼津駅周辺地区の地域づくりの目標」となっています。こちらも「広域的な地域づくりの目標」と同様、最初に地域を取り巻く状況を整理しまして、次に地域づくりの目標をまとめてございます。

さらに、15ページにございますように、「地域づくりのポイント」も整理いたしました。

前回委員会で城山先生からもご指摘をいただきましたが、今後実施してまいりますステップ3以降では、今回整理した目標が今後議論する代替案の評価項目につながってまいりますので、議論のポイントが明確になりますよう（2）の地域づくりの目標を論点ごとに整理したものとなっています。

沼津駅周辺地区、原地区の地域づくりの目標につきましても、勉強会でも議論を進めておりますので、ステップ3以降の議論につなげやすくするために整理したものでござい

す。

この地域づくりのポイントは、もともとは、ステップ3以降の勉強会の議論が円滑に進められるように、ファシリテーターの方が勉強会や車座談議等での意見を踏まえ「戦略課題」としてとりまとめたものでございまして、勉強会メンバーにも内容を確認していただいているところでございます。

19 ページから、こちらが原地区の目標となっております、こちらにつきましても、沼津駅周辺地区と同様に整理してございます。先日の原地区第2回勉強会で参加者に議論していただいたところ、参加者の一人から100点満点というようなご評価をいただいたものですから、県といたしましてもそのまま「地域づくりのポイント」としてまとめさせていただきます。

最後の25ページは、ステップ2における議論では、P Iプロジェクトの進め方についてのご意見も多数いただきました。そのため、それらご意見にお答えする意味で、県としてのP Iプロジェクトに対する取組み姿勢を、改めて明記いたしました。以上が、成果案でございます。再び、前面のスクリーン、または、資料③にお戻りください。

こちらは、今後、この成果案を最終的な成果にまとめあげるまでの流れでございます。

本日お示しいたしました成果案につきましては、本委員会後、委員の皆様のご意見を踏まえて修正したいと思っております、前回委員会で松浦委員からもご助言をいただきましたように、修正したものを勉強会の参加者とか車座談議参加団体等へ送付致しまして、ご意見を伺いまとめてまいりたいと考えております。合わせまして、ホームページ等で広く市民や関係者の皆様のご意見を伺い、最終的な成果としてまとめたいと考えております。ご意見を聴く期間は2週間程度を考えております。

こちらは、前回委員会でもご議論いただきましたが、「ステップ2におけるP I委員会の評価の視点」について、改めて、私どもなりに自己評価したものでございます。

赤字になっているところが、前回委員会での委員の皆様からのご助言を受けて取り組んでまいりました事項、あるいは、今後、ご助言を踏まえて取り組んでまいりましてございます。本日は、主にこちらの赤字の部分につきまして説明いたします。

まず、1項目目から4項目目でございますが、こちらは、先ほど説明いたしましたステップ2の成果案の作成過程の取組みについて、前回自己評価から追加してございます。

5項目目の、多重多層のコミュニケーションにつきましては、委員の皆様のほぼ全員から、特に、意見の幅につきまして、意見をいただいた方の属性や、女性や若い人の意見収集など、多くのご意見をいただきました。これにつきましては、前回以降、私ども、学校祭でのオープンハウスの開催や県立視覚特別支援学校の先生、あるいは子育て応援サークルとの車座談議の開催など意見の幅を広げるべく努めてまいりました。今後も、これを継続しまして、利害関心の幅に偏りがないよう努めてまいりたいと考えております。

6項目目の積極的な情報提供につきましては、前回高井委員からも、勉強会の開催の周知などもっと積極的に行うようご意見を伺ったところでございます。こちらにつきましても

は、今後発行する広報紙にはこれまでよりもわかりやすく示しますとともに、引き続き、さまざまなツールでの情報提供に努めてまいりたいと考えています。

7項目目のP I委員の助言を踏まえて実施しているかでございますが、前回松浦委員からご指導いただいた、関係者個々への資料確認につきましては、これまで、「意見冊子のとりまとめ」の際においては実施してまいりましたし、今回、ステップ2成果案につきましても実施していく予定です。

また、目加田委員からご指導いただいた客観的なデータ提供につきましては、勉強会において資料集という形で配布しますとともにこの資料集をHPでも公表いたしました。

それから、松浦委員から、勉強会では現地視察会などの開催も有効だというようなご意見も伺っておりますので、こちらにつきましても、ステップ3以降も先進地の事例視察会などといったことも企画してまいりたいと考えております。

以上のように、ステップ2につきましては、先ほどのP I実施状況報告のとおり、コミュニケーション活動を通じまして、多くの意見をいただいております。これを基に作成しました成果も概ね取りまとめ、公表の目途も立っております。

今申し上げました自己評価の面では、委員の皆様から見ますとまだまだ不十分なところもあろうかと思いますが、その点につきましては、今後も引き続き取り組んでまいります。

本日、委員の皆様には、このステップ2の成果の公表をもってステップ2を終了し、次のステップ3へ進むことにつきまして、よろしければご了解をいただきたいと考えております。説明は以上です。

【委員長】

はい。ありがとうございます。只今事務局からご報告がございましたけれども、今日は勉強会とか車座談議の一部でもファシリテーターをしていただいております、井上さんもそちらに座られておりますので、井上さんの感想も伺いたいと思います。お願い致します。

【ファシリテーター】

井上です。主に勉強会がメインの議論になるかとは思っておりますけれども、先程からご報告がある通り、沼津駅周辺地区では3回、原地区では2回やっております。グループ編成は、沼津駅周辺地区は3グループ、原地区2グループということでやっております。先程寺部委員からご質問がありましたが、原地区、沼津駅周辺地区どちらの地区も1回目、2回目はほぼ同様の形で行いました。資料としては、今まで車座談議、オープンハウス等で出た意見で地域づくりの目標に関するものをまず1回目に資料として提示致しまして、その項目毎に議論したということがございます。2回目は、1回目の勉強会で出された意見をさらに整理致しまして、その要望を見ながら議論を深めたというような形になっております。なお、沼津駅周辺地区では、沼津駅周辺及び広域、そして進め方という三つ、原地区では、原地区・広域・進め方と三つについて議論をいたしました。

進め方として留意した点は、先程これもご質問がありましたけど、キリがいいところでグループ討議と全体討議みたいなことを繰り返しやっていくということで、各グループでやっていることがそのまま行かないようにグループで発表し、いろんな意見交換もし、ということを少し心がけるような形で今まで進んでまいりました。

全体的に言いますと非常に活発な意見交換がなされ、比較的順調にといいますかスムーズに今までは来ているかなと思っています。

当初、この勉強会の進め方について出た意見が二つほどございます。

ひとつは、スケジュールについてです。どういうスケジュールでこれをやるのかということで、両方の意見があったのですが、いつまでも長くやるのかというような意見と、あんまり節足にやるのはどうか、年度末で終わりにするのかというような二つの意見があったと思います。一応、最終的な回答としては、時間の管理は十分に関与しながら一つ一つ丁寧にやっていきたいというような形で一応皆さんも納得していただいています。

もうひとつは、勉強会における情報提供、資料提供についての要望でした。これは、客観的なデータ、先行開催というデータ等々については出来るだけ配布するという形で、資料集等で配布してございます。

なお、各グループでどのような資料が必要かということは必ず聞くようにしておりますが、要望があった項目については、ステップに合わせて、例えばもう少し先のステップで資料としてふさわしいだろうと、例えば駅のいろいろな事例を少し示してほしいと、というようなご意見をいただき、それは今の段階よりは、もう少し先のほうで示していきたいと考えております。

一応、議論はスムーズに行きまして、沼津駅周辺地区で3回目をやったのですが、3回目は今までの議論の確認と同時に、ステップ3までといえるかどうか問題なのですが、いろいろな目標に対してどういう実現の提案があるのだろうかというアイデア出しみたいなことも少し先行してやってございます。そういう意味で3回やっているということになります。それぞれのグループで一応ステップ2に関して、「地域づくり」、メンバーの中には「郷土づくり」という言葉がいいというご意見もございましたけれど、その「地域づくり」の目標については、最終的に私が全体的な進行役をやっておりまして、皆様方にも確認をいたしましたけれども、こんなまとめでどうなのかということで、一部意見が少し食い違うこともありますけれども、目標については大方の了解を得たかなというような感触を持っております。ただ地域づくりの目標というやや抽象的なところもあります。今後ステップ3以降になりますともう少し生々しい意見も出てきますのでその時どういう風な形になるのかなというのが気になるかなと思います。

もう一つ、グループの編成について議論がありまして、当初ステップ2は同じグループに同じファシリテーターが着くという風に了解を取って進めてまいりました。このたび、一応2の議論が終わったということで次の段階をどうするか、それぞれのグループでどうしようかという確認を取りまして、今のグループで良いという方が多かったのですけれど

も、同時に、折角集まったいろいろな人がいるので、いろいろな考えの人ともう少しいろいろな意見を交わしたいというご意見の方もおられました。従いまして、これからの進め方についてはもう少し検討したいなと思っています。場合によっては、グループは変えないまでも途中で少しシャッフルしながら進めるというやり方もあるかなと思いますのでその辺ご意見いただきたいと思います。

大体以上です。

【事務局】

はい、ありがとうございます。それでは今までのご説明、ご報告に対してのご質問とかご意見いただきたいと思います。はい、どうぞ。

【寺部委員】

まず、資料3の評価視点のところで大変良いなと思いました。

二つ付け加えたいことがあって、ひとつは満足度です。勉強会、あるいは車座談議で出ていらっしゃる方々の満足度、ちゃんと皆さん満足されているのかなと、調査する必要はないと思いますけれども、ちょっと立ち話ですとか様子を伺うなど、言葉の端々とかそういったところを観察しながら、皆さん満足されているのかなとか、冒頭にほぼ出尽くしたとありましたけど、言いたいことが言えたという満足ですね。その辺はちゃんと出来ているかというのを次回しっかりと見るべきだと思います。

特に表で行くと1番の“多様な利害”とか“多重多層のコミュニケーション”、そういったところが主体的に書かれていらっしゃる方も満足度がちゃんと高くあるかなという所、不満がもしあるとするとそこは改善しておいた方が後々の為がいいかなと思います。

2点目は公平性という所なのですが、例えば大人しい人とか、なかなかみんなの前で意見を出さない人とか、欠席して出遅れた人とか、そういった人たちがいないかなという所に目を配っておくべきだと思います。1回だけ僕が見た勉強会では、ファシリテーターの方がちゃんとその辺は気配りして、大人しい方にもどうですかと結構話を振っていたようなので、うまくできているなと思いましたが、全5回の勉強会の中でそういったところが考慮出来ているのかなと。勉強会が進んでしまうとなかなか意見がいろいろ出なかったり、あの時言いたかったのに言えなかったことが出てきたりなど、満足度と関係してくるのでその辺は気をつけておくべきだなと思いました。

それから、資料4の目標（案）なのですが、多分打ち間違いなのですが、原地区の最後のところが防災じゃなくて災害になっているのですが、22ページですね、白抜きの5のところの（災害）が（防災）の間違いだと思います。

そこを見てみると、沼津駅周辺地区と原地区がほぼ同じ見出しになっていて、これは本当に勉強会に出ている方や各地区のオープンハウスに来られた方がこういう風に、網羅的な意見になってきてしまっているのでしょうか？僕の予想は、沼津駅周辺地区と原地区で

もう少し違いが出てくるのかなと。場合によってはある項目が欠けていたり、ある項目が多かったりとかという地区の特性が出るかなと思ったのですが、今日出てきた結論、結果は、文章の中身は結構違うのですけれども、見出しとしてみると同じなので、これは勉強会とかオープンハウスとかあるいはアンケートなんかに寄せられる意見をご覧になって妥当なのか、それともここは網羅性をあえて優先して強弱つけずにまとめたのかどうかその辺はどうなのかなと思いました。

【事務局】

最初の方の満足度の関係ですが、主に車座談議ではアンケートを読んで、話を聞いて、そういう意味合いの満足度は我々も把握しておりますが、細かい質の議論であるとかそういう深い点についての満足度をいわれるとちょっと疑問点が残るところもございます。姿勢に対しての満足であればアンケートで判断できると思います。

あと、公平性のことで、今のところ勉強会の欠席率が非常に低くて、ほとんど参加されておりますが、欠席された方にもお会いできる場合があればこういう話をしていましたと報告しています。まだ欠席者が少ないものですからできると思いますが、今後ステップが進む中での情報が多くなると思いますので、その点は工夫していきたいと思います。

【事務局】

後ろの方のご質問につきましては、基本的には網羅的に記載させていただいているという答えです。

参考資料7というのを見ていただきたいのですが、これが勉強会等でたたき台として使った資料でありまして、勉強会の始まる前に再三オープンハウスや車座談議を実施した中で頂いた意見をこのような形で整理してございます。

例えば、この資料では小さい字で黒い四角（■）で意見があろうかと思えます。どちらかという今回勉強会での議論も密度が全然違いまして、参考資料7にありますとおり、二つの項目にこんなたくさんのご意見があるものもあれば、たった1行で出ているものもございまして、特にどの辺に興味があるのかと言うとほぼこれに近いような形で議論が進んだのかなという風に私たちも見ておりまして、結果的にまとめると今お手元でございます資料4のような形で広く意見の幅を拾ったという形での整理という形でございます。

【寺部委員】

今の件でももう少し深くお尋ねしたいのですが、特に原地区のところで、僕はもっと防災が上に上がってくるのかなと思ったのですが。確かに今示していただいた参考資料7で行くと防災のところって随分意見が少ないのですね。だから、結局この案ありきで進んだのかなと思ったので、そこが一番感じた違和感です。防災っていうのは原地区でそんなに大きく上がってこないところがちょっとあれっと思いました。

【事務局】

すみません。先程の説明は参考資料7と同じ密度みたいなことをいいましたが、原地区の勉強会では、やはり東日本大震災がありましたので、津波の話題とかも出ておまして、あの辺は実は浸水地域でもございまして、治水の話ですとか津波の話などは比較的多くご意見として出されておりました。

【委員長】

いかがでしょうか？松浦さん何かご意見とかございますか？

【松浦委員（電話）】

よろしいですか？

【委員長】

はい、どうぞ。

【松浦委員（電話）】

原地区と沼津駅周辺地区の勉強会に行けていないので、確認させていただきたいのですが、勉強会の中で成果を踏まえて成果取りまとめを、今日のP I 委員会で案が出てきて、パブリックコメントなどで公表することについて勉強会の中でちゃんと説明があったのかどうか？今までの話からするとそのことを説明されているかどうかっていうのが一つです。

二つ目はコメントなのですけれども、井上さんの方から事例を見せてほしいという意見があったということ伺ったんですけれども、その時に良い事例だけじゃなくて、失敗してしまった事例をむしろ出して議論ができれば良いのだろうなと思います。今日の後の議題にかかわってくると思うのですが。以上2点です。

【委員長】

いかがでしょうか？では、1点目について。

【事務局】

第1点のご質問ですが、先程のパワーポイントのステップ2目標設定の今後の流れというページがございまして、例えば、原地区の第2回の勉強会の終わり、第3回目の沼津駅周辺地区での勉強会の終わりに、時差があるものですから説明の仕方が少し違ってはいるのですけれども、今後こういうものを我々県の方で皆さんのご意見を聴いてまとめていきます。これについてはP I 委員会に諮らせていただきます。それについてはまた再度修正をして、HP等で意見を聴いていきますと。ただ、2週間とか期限的なものはお伝えしておりませんが、大方の流れについては勉強会の最後の部分で口頭ですが説明させていただい

ております。

【松浦委員（電話）】

はい。そういう風な形で問題ないかと思うのですが、急に成果が出てきて急に何だみたいな感じで反対を受けるのは良くないと思います。はい、以上です。

【委員長】

はい。ありがとうございます。

多分我々としては資料3の4枚目の事務局の自己点検評価がこれで正しいだろうか、これでいいのだろうかという点の議論をするべきかと思いますが、それに関してそうではないだろうかという回答とかございましたらお願いしたいのですけれどもいかがでしょうか？

非常に良くやってよろしいというような意見でもいいのですが。どうぞ。

【寺部委員】

よろしい、結構ですけど、先程申し上げた満足度と公平性っていうところが、特にわざわざ視点の中に書き加えることはないと思うのですけれども、その辺を意識してステップ2を総括するということがいいのではないかなと思います。書いたものに関してはいいと思います。

【委員長】

勉強会のメンバーの方にその都度ご意見を伺うようなシートは配布されてましたよね？

【事務局】

はい、アンケートのような形で。

【委員長】

アンケートの結果は、数少ないので平靜的、印象的な考察になろうかと思うのですけれども、何かご紹介していただくものがあればお願いします。

【事務局】

3時間議論した後のアンケートなものですから、皆さん疲れて概ね良かったとかですとか、細かい運営の仕方についての注文のようなものは次回にという形で。印象的なものは特になかったですね。

【委員長】

ということは、逆に言うと概ね満足度を持って、好意的に、あるいは肯定的に受け止めていただいて、改善のアイデアをご提供いただいているという感じでよろしいですか？

【事務局】

はい、私の印象としては好意的に皆さん受けていただいているという感覚があります。

【事務局】

毎回勉強会の後にアンケートを取っておりまして、実はまとめてございます。その時ご出席された方の意見をまとめてありますので、もしよろしければ後日データを皆様に送らせていただくということは可能だと思います。

【委員長】

はい、ありがとうございます。

私から感想なのですが、こういうところで助言しているところもあろうかと思うのですが、それに対して本当に真摯にいいアイデアを出していただいているということ、高く評価したいと思います。まだまだ課題を追及すべきところはあるかと思いますが、P Iはまだステップ2でございますのでそういうことについてはさらに今後努力していただきたいということで私としては、ちょっと結論を急ぐようではありますが、自己評価等についてはいいのではないかなという風に思いますが、松浦さんはいかがでしょう？

【松浦委員（電話）】

逆に言うとこれまでかなり時間がかかっているところがあるので、目標についてアウトプットとしても十分なように見受けられますし、時間としてもかかっているのももう少し具体的な話に移った方がいい段階だなと思います。

【委員長】

ただちょっと私、気になっているところもございまして、3番目のスライドを出していただけますでしょうか。

今日は上から二つ目の地域づくりの目標（ステップ2）成果案ってところの議論でして、概ねステップ2についてもいいということで実施していただいて、当初定めた実施計画での評価の視点がクリアできただろうということをご確認いただけたかと思います。

ただ、勉強会だけではなくて、車座談議とか市民一般の方がそういう風に思われているかっていうことも非常に重要でございますので、事務局でも今後さらに2週間くらいをかけて皆さんの意見をお伺いしたいという風な活動をされるのですね。やっぱり今日は、概

ね良いけれどもその結果を踏まえて最終的なチェックをしたほうが良いと思うのです。ただ、そのためだけにこの委員会を開くということも大変かなと思いますし、先程からいろいろなところで反応が出てきておりますが時間管理という観点からも望ましいことではないので、今日は、基本的には了承しますけれども、メール等で最終確認をきちんとすることで、留保させていただければなという風に思いますが、よろしいですかね？

【委員メンバー】

はい。

【委員長】

そういうことで、基本的にはOKでございますけれども、最終的にはあとちょっとだけ時間をいただいてそれを待って、今日のご意見とかディスカッションの結果をきちっと書面で提出したいと思います。その文面等につきましては私と事務局とで相談して作りまして、これをまたメールで先ほどのこれからの更なる2週間程度の活動の結果とともに皆様方にお送りいたしまして、そこで再度ご意見を伺うというそういう手続きを踏まえてステップ2の最終評価をさせていただきたいと思いますが、そういうことでよろしいでしょうか？

松浦さんもいかがでしょうか？

【松浦委員（電話）】

はい。わかりました。

【委員長】

ありがとうございます。それでは、一応、ステップ2を基本的には終了して差し支えなからうと、当初の目標は達成できただろうという風にさせていただきたいと思います。

次の議題でございます。

ステップ2は基本的にはOKという結論をいただきましたので、その後でステップ3の進め方等をご説明いただいて進めてまいりたいと思いますのでよろしくお願い致します。

4) ステップ3の進め方

【事務局】

はい、どうもありがとうございました。1週間の意見をまとめた後でどんな意見が出たかどんな修正をしたかを皆さんには後でしっかりとご報告させていただきたいと思います

それでは、ステップ3の進め方でございます。また前の方のスクリーンまたは、資料⑤をごらんください。

こちらは、PI実施計画におけるPIの流れでございます。

これまでは、ステップ1でPIをどのように進めていくかを定めた実施計画を策定し、ステップ2では、先ほどご議論いただきましたとおり、どんな地域にしたいのかといった目標の設定を行いました。これから進めてまいりますステップ3から5では、目標で定めた地域にしていくためには、どのような方策が考えられるのか、それぞれの方策にはどのような利点や問題点があるのかということについて、議論してまいります。

ステップ3では、目標の実現にむけた方策を、広域レベル、地区レベルの沼津駅周辺地区、原地区それぞれで検討します。また、さまざまに提案された方策を、どのような視点から比較して、最適な方策を選定すればよいのか評価項目についても検討します。

ステップ4では、広域レベル、地区レベルのものをパッケージ化しまして、ステップ5ではそれを比較評価していくという流れになります。

こちらは、ステップ3で検討する内容でございます。

ごらんのようにステップ3では、ステップ2で設定した「地域づくりの目標」を達成するための具体的な方策を検討致します。また、地域づくりの目標をどのような指標で評価して比較していくのかなど、広域レベル・地区レベルで評価項目を整理致します。

こちらは、ステップ3の進め方でございます。ステップ2同様、ホームページ、広報紙、オープンハウス等で広く意見を伺うとともに、車座談議や勉強会において深い議論を進めてまいります。とくに勉強会は、各回で議論した内容は次回の勉強会の材料となりますよう事務局がとりまとめ、例えば、出された方策のイメージを絵的にお見せするなどしながら、効率的な運営をしてまいりたいと考えております。

このように実施するステップ3でございますが、委員の皆様には、これまで同様、監視、助言、評価をよろしく願いたいと思っております。

こちらはPI委員会の評価の視点です。表の左側が実施計画に記載の評価の視点でございまして、右側に、ステップ3における留意点を事務局なりに整理いたしました。

基本的には、先ほど評価いただいた、ステップ2の評価の視点と同様となっておりますが、少し変わる点だけ説明いたします。

1点目の「多様な利害や関心を調整して互恵的な解決を模索しているか」ということについては、ステップ3は具体的な地域づくりの方策を議論するため、勉強会などの場では様々な考えを持つ方同士が対立につながりやすいのかなと考えられます。このため、様々な提案される方策に対して、相互に理解が進むような運営がなされているかといった点についてPI委員会には監視評価をいただきたいと考えております。

2点目は、ステップ2と同じですが、3点目の議論が混乱しないよう、「各ステップの趣旨に応じた検討を行っているか」でございますが、ステップ3の議論においては、それぞれの具体的方策を批判しあうことも予想されます。このため、次のステップ以降の議論との混同を避けるとともに、議論が次のステップへと円滑に移行できるよう考慮して進めているかといった視点から監視をしていただきたいと考えております。

4点目の「多様な利害や関心を踏まえた上で、目標や代替案、評価項目を設定している

か」でございますが、ステップ2では、多様な利害関心があるなかで、一定の共有化がなされた「地域づくりの目標」を整理しました。ステップ3では、その目標を共通の立脚点として、常にそこに立ち返りながら、議論の流れを確認するといった丁寧な進め方がなされているかという点について、監視いただきたいと思っております。

5点目の「市民や関係者との多重多層のコミュニケーションを行っているか」でございますが、ステップ2で委員の皆様にご意見をいただきました意見の幅を意識しながら、広報紙やオープンハウスなどの機会に限らず、車座談議などの直接的な双方向コミュニケーションの機会を引き続き設けるとともに、女性や若年層、各種の企業など、これまでコンタクトが比較的少なかったステークホルダーも含め、幅広い対象とコミュニケーションを継続しているかについて、監視いただきたいと考えております。

6点目の「積極的かつ適切に情報を提供しているか、十分に意見を聴き、論点を把握しているか」でございますが、こちらも、ステップ2で委員の皆様にご助言をいただいたように、勉強会での議論の状況を広報紙や車座談議などの手法を通じて広く提供しているか、あるいは共有しているかとともに、多様な意見を把握し、論点を整理しながら進めているか？議論に必要な情報は適切に提供されているかといった点について、監視いただきたいと考えております。

7点目、8点目につきましては、ステップ2のときと同じ内容でございます。

委員の皆様には、以上のような視点で、これまで同様、私どもが行うPIにつきまして監視いただき、助言、評価をお願いしたいと考えております。

説明は以上でございます。

【委員長】

はい。いかがでしょうか。ご意見ございましたらお願いしたいと思います。

【寺部委員】

ステップ3の「具体的方策（代替素案）」というのと「評価項目」っていうのがあるのですけれども、これは具体的に、勉強会の中の運営のイメージを聞きたいのですが、これらは別の議題として別の会で議論するのか、それとも1回の勉強会で前半は代替素案を出して後半は評価項目を出してっていう、この辺はどういう風に上手く振り分けていく予定ですか？

【事務局】

前半の説明にもありましたが、沼津駅周辺地区については第3回目の勉強会でこの目標を達成するためにはどんな方策があるのかといったそのアイデア出しをしていただいております。方策につきましては勉強会の皆さんから目標を実現するための方策のアイデアをまず出していただこうかなと考えております。

下の方のスライドに勉強会の流れを出してございますが、まずアイデア出しをしてもらいまして、そのあと具体的な代替素案みたいなものを出していただこうと。おそらく1回目の案がありまして、なんとなく話したいものと参加の皆さんと共通のイメージができないのかなというのもあるので、もしアイデアがあればそういったものは事務局側で、どういった形になるかはわかりませんが、少しイメージがわかるような形でお出ししてというように、最終的にどんな方策があるかという代替素案の決定まで行きたいと思っております。

評価項目につきましては、概ね、拠点、交流、暮らし、産業・雇用などいろいろな目標を作りましたのでどんな風に代替素案の評価をしていくか、私どももまだ悩んでいる部分もありまして、どういう指標を使えば方策について良いのか悪いのかを判断するのかと、あるいは、いくつかの代替案を一つに、あるいは二つに絞っていくときにどういう風な点数付をするのか、二重丸が多いほどよしにするのか、×が少ないほどよしにするのか、その点は皆さんのご意見を伺いながら今後考えてまいりたいと考えております。以上です。

【委員長】

どうぞ。

【高井委員】

井上さんにお伺いしたいのですが、今の勉強会の人数というのは、これまでやられているご経験の中から、人数としてはもう限界なのでしょうか？というのは、この段階で、勉強会のメンバーを追加で募集することはやらないのでしょうか？

【ファシリテーター】

私がお答えしかねるのですが、原地区は途中で3名ほど増えたということはありませんけれども、ここまで来ると新しいメンバーが入ってくると情報格差ということがありますが、どうしてもという話があるなら結構なのではないかと思えます。

【高井委員】

今度段階が変わりますよね？2週間程度周知して、新たな段階に入るので、むしろこの段階の方が入りやすいかなと、もう少し具体的な議論になってくるので。これまでやっている勉強会の話聞いてないという方がいらっしゃるかもわからないし、ただ勉強会は人数が多くなると議論がやりにくいというようなことがあるのであれば、また募集するのもどうかと思いますし、そのあたりは、どうなのかなと思ったのですが。

【ファシリテーター】

運営上は、タイミングが今の時点はいいかなとは思いますが、膨大に人数が増えるのは

とても無理だとは思いますが数名というのはありうると思います。その場合、適任の方をどういう風を選ぶのかとか、あるいは公募するのかという、選出方法は結構厄介かなという感じがします。

【事務局】

実施計画でも、この勉強会につきましては、ステップ2から同じ固定メンバーにてと資料にも書かれておりますが、できれば、ステップ2・ステップ3・ステップ4と固定のメンバーでいきたいという風に元々考えておりました。ただし、実はもう少し事務局としては、4グループから5グループぐらいが当初想定でおったのですが、これまでの委員会でも再三ご報告している通り、なかなか勉強会の方に集まっただけなかったという現実もございまして、今現在私どもが考えているのは今のメンバーで引き続き継続してやっていくしかないのかなと、ただそれで、私たちが元々予想していたものよりメンバーが少なかったかなという所は少し反省点としてあるところでございます。

【委員長】

大事なポイントだと思うのですね。当初勉強会がなかなかスタートできなかったのは、代理戦争をやらされるのではないかと、中立的なきちんとした議論ができないのではないのかという、そういうこちらが意図していたこととは別の印象をお持ちになったみたいで、ステップ2で勉強会の本当のやり方というのがある程度明らかになってきましたので、それだったら参加したいという方がおられるかもわからないですよ。そういうことに対しては一言OKですよということをごどこかで表明しておいた方がいいだろうと思います。今増田課長が、当初5グループくらいとおっしゃっていただいたので、この部屋に5グループはちょっとどうかとは思いますが、きちんとしたディスカッションができる限界っていうのもやっぱりあるかとは思いますが、それについてはプロ中のプロがおられますのでそういう方とも相談をしていただきたいと思いますけれども、固定で限定というのではなくて、むしろ歓迎しますというメッセージは強く出すことが重要かなと思いますが、いかがですか？

【事務局】

先程、今までの皆様のご意見の現実を見ると、これ以上は難しいかなというところの現状をお答えしておきまして、今おっしゃったように参加したいという方あれば、いろいろ年代構成などの属性の偏りがあってもいけないものでして、推進の方ばかりが入ってもいけないですし、反対派の方ばかりが入ってきてもちょっとバランスに欠けます。もし手を挙げていただいた方につきましてはそういったところも念頭に置きながら前向きな考えをしてまいりたいと思います。

【委員長】

はい、ありがとうございます。松浦委員は何かご意見ありますか？

【松浦委員（電話）】

はい。まず一つ目は、具体的なアイデアを出してもらおうということなのですが、先生方はいろいろな事例等ご存知でしょうからアイデアがポンポン出てくるような気はするのですが、地元の方ですと勉強会ということであればあるほど特定の俗人的なところで情報を得たりして、バイアスがかかかったりすることもありますので、先程井上さんからのお話がありましたけれども、勉強会的なものをやったり、展示会をやってからアイデア出しをした方が机上の空論にならないし、思いつきではない広いアイデアが出てくるのではないかと思います。そこで誘導があるといけないのですが、かといって全く白の状態からアイデア出しをお願いするというのももしかすると悪い方向に行く可能性もあるかなというのが一つと、あと、昔の資料を確認していたのですが、この段階でいろいろな計画案を余談なく検討するとあるのですが、例えば、多分出てくると思うのですが、駅の中に南北自由通路みたいなものを作るといようなものが出てきたときに、現状を評価した上で代替案をまとめていくのか、それともJRの方が例えばもしもというようにどこかで言っていたとしてもその案に含めていくのかどうかという二つの点の懸念があるので確認したいところです。

【事務局】

2点目の方ですが、既に自由通路、橋上駅舎案というのは市民の方から過去から提案されている話がございますので、基本的には今の段階での答えなのですが、代替案の一つとして検討していくことになるという風に考えております。

【事務局】

1点目の質問のお答えなのですが、今、沼津駅の方は3グループでやっているのですが、沼津駅周辺は場所的に広いものですから、例えば勉強会のメンバーの集まりの時間を少し早くしてもらって、少し間がありますので、回りながら今までのオープンハウスではこういうことをやっていましたということをお話しながら一回りするといったやり方もいいのかなと我々事務局も考えています。

【委員長】

今の松浦さんのご意見に関して私はこういう風に思っていて、2回3回参加させていただいて、まだまだ少ないですが、思いつきとか突飛なアイデアは非常に少なかったような印象を持っています。やっぱり皆さんご存知のようにこの問題ずっとやっていますから、勉強会に出てやろうというくらいの方はずっと考えておられる問題であります

ので、そういうところからよく観察をされて、沼津の現状がどうだとか沼津地区の特性がどうだとかそういう中で自分の思いとしてこういう風にしてほしいというそういうアイデアとか議論がほとんどだったようにお見受けしました。そのことは大事にしたいので、あまり突飛などか思いつきというのはあまり心配しなくていいのかなというのが私の印象でございます。

ただその時に、先程増田課長もおっしゃいましたけれども、いろいろなアイデアを出していただいて、それを事務局で受け止めて形にしていく作業が実は非常に大事なところだと思うのです。やはり市民と、先程も非常に熱心に且つずっと考えてられているという風に申しましたけれども情報の面とかスキルの面とか、やはり市民の皆さんと事務局の間には圧倒的な格差があるというのは事実でございます、そこが事務局として受け止めて形にしていくときの態度として問われると思うのです。要するに丸め込もうとすると丸め込むことができるかもわからないけれども、そういうのはやっぱり自ら律すべきであろうと思います。市民の皆さんが真摯により良くするという態度で形にしていくということが本当に大事だと思うのです。そのことを、評価視点の案のどこかに、1ですかね、ぜひ付け加えたらなと思いました。そのことがやっぱり良い形で本当に納得していただいて、良い代替案が出来ていく、それを一つに絞るっていうのではなくて、いくつか出てくると思うんですけども、その一つ一つについて、方向性の違いはあるけれども、よく考えているよね、ということが勉強会だけではなくて、その他の車座談議でもニューズレターでもオープンハウスでも続いていくと思いますので、そういうことが感じられるような代替案づくりが問われているんだと思います。事務局はますます大変だろうと思いますけれども、その辺は大事なポイントだと思いますのでよろしくお願いをしたいと思います。

いかがでしょうか？はい、どうぞ。

【寺部委員】

代替案のアイデア出しとして、どういう風にいるんな人の意見を集めるかということややっぱり否定しないということがすごく大事だと思いますので、予断なく、最初のうちはとにかくいろんな突飛なもの、絶対不可能だというものでもちゃんと受け止めて、ちゃんとメモに残していくというのがすごく大事だろうなと思います。特にステップ3の①みたいな勉強会の今回のステップ3の前半の方というのは、絵を残すほど実現性は高くないものでも文章として残しておく、というようなことは出来るだけやっておいた方がいいかなと思います。

もう一つ、勉強会のメンバーを固定するというのがありましたが、そういう風にしなないために、勉強会のメンバーをどうするかということの補助的な案としては、オープンハウスとか車座談議とかありますのでそこでぜひ突飛なアイデアでも出していただくと。アイデア出しも勉強会の中だけで閉じて固定したメンバーだけでやらない方がいいのではないかなと強く思いますので、このステップ3のイメージの上の方の他のP Iの手法の方でも

アイデアをぜひ出してくださいと。そこにこそ若者とか子育て世代の突飛なアイデア、これは無理でしょ、というようなものでも受け止めてちゃんとメモに残しておくというのが大事かなと思います。

【委員長】

はい。他に何かありますか？松浦さんいかがでしょう？

【松浦委員（電話）】

先程申し上げていたことの一つの点が上手く説明できてなかったのかもしれないですけども、交通工学なり、地域計画で先進事例みたいなものがあるとある程度我々も考えるときになぞられるのですが、そういったようなことが全くない状態の人に対しての学習か何かあれば、やらなくてもいいかもしれませんが、資料だけでも何か教えてあげないと何かもったいないかなという風な気がします。地域での経験みたいなものを沼津ローカルでも静岡でも活用できないかなと思っているところなのですが。

【委員長】

その通りです。予算制約、あるいは時間制約もありますでしょうけれども、百聞は一見にしかずと昔から言いますので、そういう機会をぜひご検討いただければと思います。

ありがとうございます。他にいかがですか？

ちょっと質問なのですが、この資料の2枚目はステップ3・4ってことで上に書いてあって、その次のスライドはステップ3に戻っているのですが、何か意味があるのですか？

最初に私の意見から申し上げますと、もう駅前の勉強会も3回目では、自然に課題の共有から、本当にこれはどうするのという意見が、ファシリテーターの方の演出もあるんでしょうけれども、本当に自然にそっちの方に行っていたような印象がございます。そうしますと、やっぱり具体的方策は評価抜きに、これもうちちょっと行こうよ、とかはなかなかいかないと思いますし、評価抜きにやると余計な労力がかかったりしますので、それは勉強会とか車座談議でどういう形をするのかということに依存するところが大きいと思うのですが、今はステップ3だから評価の話はしませんという頑なな態度はとらずに融合するのがいいのかなというので、ステップ3と4と書いておいた方がいいのかなというような気がするのですね。だから3枚目と4枚目にも、特に3枚目は中身が評価項目の話をするを書いてありますので、誤解かもわからないけれど、あんまり3と4っていう風にして書かなくていいのかと思うのですが、

やはり事務局としては一つ一つ丁寧にやっていくべきというご意見ですか？

【事務局】

実施計画はこのような3と4をしっかりと分けて、ステップ4では関係機関協議という形でまとめてございます。そういう関係で3と4というのは分けながらやるのかなと思っておりました。ただ、3・4と書いてあるのは基本的に内容は同じなものですから一つにまとめてあるだけでございまして、現段階の有力案は、3で区切りはつけて、4でパッケージ化していくというイメージで考えているところでございます。

【委員長】

丁寧に・・・？

【事務局】

いろいろな方から、そういったお話をいただければ、それはそれでまたもう少し考えていきたいと思えます。

【委員長】

我々がどうだこうだとういことを決めるべきではなくて、やはり市民の皆さんがいいよということをお決めいただくものだと思うのです。ただその時に最初決めたからこれで必ずやりますと、今の段階ではそれは先のステップのことなので議論はだめという風な、実際の運営ですよね、ファシリテーターのあり方の関係性もあるとは思いますが、形式ばったものでないような柔軟な勢いのある議論をしていただければという、そういう希望です。

いかがでしょうか？はい、どうぞ。

【寺部委員】

今の話なのですが、僕はある程度区切った方がいいのではないかなと思っていて、先日の沼津駅周辺地区の勉強会の中のようにステップ2から3へ自然に移行していくようなそういう感じでステップ3から4へ移行していくっていうその辺の間は止める必要はないと思うのですが、ただステップ4というのは代替案をパッケージ化して組み合わせるという、沼津全体をどうしていくかというところ、議論がより上のレベルに行くので、あんまり沼津駅周辺地区だけ早くいっているからもう原のことも考えましょうという風に進んでいくのは、ちょっとやらない方がいいのではないかなと思えます。

【委員長】

はい、ありがとうございます。

【寺部委員】

主観的なタイムスケジュールってどんな感じですか？ステップ3は？

どんなでしょうか？大体の、1年かけるってことはないと思うのですけれども、半年くらいかなと思うのですがどうでしょうか？

【事務局】

市民の方にも、ステップ2が半年遅れておりまして、今後のスケジュールについては、一生懸命やって短くする予定でおりますということも言っております、ステップ3だけで半年ということは今現在は考えておりません。もう半分以下にと。実は、次の議題のところで少しご説明しようかと思ったのですが。

【委員長】

説明してください。

5) 今後の進め方

【事務局】

では次の議題になりますが、今後の進め方について話させていただきます。お手元の資料の6をご覧くださいと思います。

まず先程ご審議いただきましたステップ2の終了スケジュールでございますが、本日はいただいたご意見を踏まえた成果案を早急に作成し、市民や関係者の皆さんに2週間程度ご意見を伺います。その後修正を行いまして、ステップ2の成果として取りまとめてまいります。順調にいけば、4月の上旬には、公表できる予定でございます。

その公表につきましては、報道への資料提供、それからホームページにて行うと共に、ステップ2成果案の報告と、ステップ3の問いかけを兼ねましたニューズレターを4月中旬に発行したいと思っております。また、オープンハウスもその間、開催致しまして、ステップ2の成果案についても周知を図ってまいりたいと考えております。

それから、ステップ3でございますが、勉強会の開催につきましては、すでに参加者の皆様にはお伝えしていることではございますが、沼津駅周辺地区では4月13日、それから原地区では4月20日に開催する予定であります。合わせまして、ステップ2同様、これまでいただいた委員の皆様のご助言を踏まえながらPI活動を実施して、議論を進めてまいります。

この次第には載せてございませんが、ステップ3の終わりのころには原地区と沼津駅周辺地区の合同勉強会をしようかと予定をしております、スケジュール的に明言は避けたいのですが、なるべく4・5・6月くらいのイメージの中でステップ3を進行したいと考えてございます。

最後1点は、ご報告でございますが、参考資料3 PI実施計画をごらんください。

昨年4月に策定いたしましたP I実施計画でございますが、策定時は平成24年度中の完了を目指していたものですから、実施計画も、2ページ3ページの見開きをみていただいたのですが、この一番上の部分は、平成24年度のみ記載でございました。

前回委員会にて、P Iプロジェクトを平成25年度も継続して実施する旨のご了承をいただいたものですから、この年度表示につきまして、ごらんのように、平成25年度も追加させていただきました。最初に実施計画を定めたときのものとはいいながらも、実はオープンハウス等で相変わらず使用していくときにもう終わったように見えてしまうものですから、そのように必要な修正を加えさせていただいたものと、見開きの中の2、3ページなのですが、下の方に使っている写真が、今までは私どものP I活動ではない写真を使っていたもので、今回写真だけは、沼津P Iの写真に入れ替えさせていただいてございます。その点を皆様にご報告させていただきます。

県といたしましては、これまで同様、市民や関係者の皆さんとスピード感をもちつつ、といいながらも丁寧に議論を重ねてまいりますので、委員の皆様におかれましても、ご多忙のところ恐縮ではありますが、これまで同様、監視、助言、評価ということによりよろしくお願いを致したいと思っております。

以上でございます。

【委員長】

はい、ありがとうございました。はい、どうぞ。

【寺部委員】

一個前の議題でもあるのですけれども、ステップ2の成果案をHP等でも意見をいただいたとあるのですけれども、これは、県のパブリックコメントのような正式な手続きを踏んで行うのですか。

【事務局】

前回の実施計画の時にもパブリックコメントという形で、前回は県で定められた県民意見提出手続きに沿ってやったのですが、今回は、時間的なこともありましてできればHP上で2週間くらいご意見をお伺いして、必要な修正を施すということで考えたいと思います。

【寺部委員】

はい、それでいいと思います。

それから、時期に関しても短くてかえって良かったなと思えました。勉強会は月一で各地区ずっとやり続けているというのは非常に早い事例だと思います。他の場所の別のP Iのプロジェクトであまりにも時間が空きすぎて、勉強会のメンバーが、

「あれ？何話したんだっけ？」みたいなことでその復習に随分時間がかかったり、あとは興味が薄れてきて、それを補うのが大変だったりという事例を見たことがあります。それに比べて沼津は、テンポよく、年が明けてから行っていますので良いと思います。

ステップ3も皆さんの顔を見ながら、勉強会の皆さんの顔とか車座談議とかメールのご意見を見ながら早めに進んでいくというのがいいのかなと思います。

【委員長】

はい、ありがとうございます。他にご意見いかがですか？

松浦さんいかがですか？

【松浦委員（電話）】

はい、資料6の最初のスライドでステップ3の最後のところで関係機関調整とあるのですが、これは何でしょうか？

【事務局】

はい、スライドのステップ4のパッケージ化と書いてあるところの下に「関係機関調整」というのが□で書いてあるのですが、元々の実施計画、参考資料3のステップ4の冒頭のところに「関係機関と調整し、代替素案の実現可能性を確認します」ということでこのスライドでは実施計画通り、ここの位置に載せさせていただいているということでございます。以上です。

【松浦委員（電話）】

わかりました。ここではステップ3のところは予断なくということで、ステップ4の所で技術的にいろいろとチェックをやっていくということですね？

【事務局】

はい。

【委員長】

よろしいでしょうか？

【松浦委員（電話）】

はい、了解です。

【委員長】

ほかにございませんか。ステップ3で今日、新メンバーが来てもいいよという前向きに

考えますというメッセージを出していくということと、やはりアイデア出しを形にする時の事務局のスタンスというのが結構大事で、それについては評価の項目に追加をすることと、ステップ3はやはりステップ3でやって、先程の松浦さんのご意見にもございましたけれども、ステップ4とは区切りを入れて考えるのが原則で、ただし、議論の進め方によってはそういうこともあるケースはあるだろうというくらいにして、そこが大きなご意見だったかと思えます。

それでは、一応今後の進め方まで終了したわけでございますけれども、何か今日の第8回の委員会を通じて、ご注意とかご意見とかございましたら、お願いしたいなと思うのですが。よろしいですか？

どうもありがとうございました。本日の議論はこれで終了致しましたので、事務局にお返しします。

【事務局】

それでは、委員の皆様長時間ご議論いただきましてありがとうございました。次回の会議日程につきましては、事務局にて日程調整の上、改めてご連絡させていただきます。それでは以上をもちまして会議を終了致します。本日は、長時間ありがとうございました。

以上